

岡本 進

(東京外国語大学大学院 susumu.okamoto415[at]gmail.com)

要旨

本発表の目的はフィジー語の叙述所有を記述することである。フィジー語の叙述所有は、類型論的に、所有者を斜格で標示する **Locational** 型 (私に本がある) であるとされてきた。しかし実際には、所有者を属格的形式で標示する **Genitive** 型 (私の本がある) も観察される。両者の違いは所有関係の時間的特性によるものである。**Locational** 型は恒常性の低い所有関係に用いられ、譲渡不可能所有や全体部分、所有権関係にはなじまない傾向にある。それに加えて、**Locational** 型は、その名の示す通り場所と連続しており、必ずしも所有関係を表すわけではない。一方、**Genitive** 型には時間的特性について制限がなく、必ず所有関係を含意する。**Locational** 型と **Genitive** 型の相違には、意味的な要因に加え、所有者の名詞クラスも関わっており、**Locational** 型は人称代名詞・固有名詞の所有者しか許容しない一方、**Genitive** 型にはそのような制限がない。

1. はじめに

フィジー語の所有について、興味深い記述が数多くある (Pawley and Sayaba 1990, Geraghty 2000, Lynch 2001 など)。しかしその多くが限定所有 (**nominal / attributive possession**)、さらに言えば所有類別についてのものである。本発表の目的は、標準フィジー語¹ (以下単にフィジー語とする) の叙述所有 (**clausal / predicative possession**) を記述することである。本発表の構成は以下の通り; 2 節では本発表の前提となる知識と先行研究をまとめる。3 節で **Locational** 型と **Genitive** 型の選択には、所有関係の恒常性 (3.1 節) と所有者の名詞クラス (3.2 節) が関わっていることを示す。4 節は結論である。

本発表中の例文・表番号、グロス、文字飾り、先行研究の日本語訳については、特に断りのない限り発表者によるものである。出典を明記していない例文については、すべてフィジー語母語話者である LG 氏 (1962 年生まれ、男性) と SG 氏 (1962 年生まれ、女性) にその容認度を判断していただいた。

2. 前提知識・先行研究

2.1. フィジー語の限定所有

本発表は叙述所有についての研究であるものの、限定所有も関わるため概略を示す。フィジー語は (i) 譲渡不可能所有、(ii) 食べ物、(iii) 飲み物、(iv) 無標という 4 つの所有類別の体系を有し、それぞれ異なる方法で標示される。(1) は所有者が代名詞の場合、(2) は固有名詞の場合である。所有者が普通名詞の場合、(3)a のように所有者名詞句を後置するか、(3)b のように *ni* を用いる。後者の場合、所有類別の区別は中和される。

¹ オーストロネシア語族、東マラヨ・ポリネシア語派、オセアニア諸語に属し、基本語順は VOS。音素目録は以下の通り; /p, b [ʷb], t, d [ʳd], k, q [ʳg], r, dr [ʳr], v [β], f, c [ð], j [tʃ], z [ʳdʒ], m, n, g [ŋ], l, w, y, a, e, i, o, u/。本発表は正書法を用いるが、長母音は短母音と区別されないため、マクロンで表す。

- (1) a. 譲渡不可能 b. 食べ物 c. 飲み物 d. 無標
ulu-qu *ke-qu* *ika* *me-qu* *tī* *no-qu* *vale*
 head-1SG PC.E-1SG fish PC.D-3SG tea PC.N-1SG house
 「私の頭」 「私の魚」 「私のお茶」 「私の家」
- (2) a. 譲渡不可能 b. 食べ物 c. 飲み物 d. 無標
ulu-i *Mere* *ika* *ke-i* *Mere* *tī* *me-i* *Mere* *vale* *ne-i* *Mere*
 head-POSS PN fish PC.E-POSS PN tea PC.D-POSS PN house PC.N-POSS PN
 「メレの頭」 「メレの魚」 「メレのお茶」 「メレの家」
- (3) a. *ulu-na* *na* *gone* b. *ulu* *ni* *gone*
 head-3SG ART child 「子供の頭」 head of child 「子供の頭」

2.2. フィジー語の叙述所有

叙述所有の種類について、本発表では最も簡略化された Stassen (2013) の枠組みを用いる (4)。Have 型以外は存在動詞が述語として現れる点で共通している。

(4) 叙述所有の種類 (Stassen 2013)

- a. Have 型 「私が本を持つ」 d. Topic 型 「私は本がある」
 b. Locational 型 「私に本がある」 e. Conjunctional 型 「私が本とある」
 c. Genitive 型 「私の本がある」

これに従えば、フィジー語は Locational 型に当てはまるという (Stassen 2009: 130, 755, Stassen 2013, Heine 1997: 51)。述語は *tū* や *tiko* といった存在動詞が用いられる。ボウマー方言では、前者は恒常的な所有、後者は一時的な所有に用いられるという (Dixon 1988: 128)。(5) では *tū* が述語として用いられている。所有物は文頭の主語標示と一致している。一方所有者は前置詞 *vei* で標示されている。

- (5) *E* *tū* [*vei* *au*]_{POSSESSOR} [*e* *dua* *na* *ilavo*]_{POSSESSEE}
 3SG be to.PRPR 1SG 3SG one ART money
 「私はいくらか金を持っている (lit. 私にいくらか金がある)」 (Milner 1956: 59)

しかし実際には、Genitive 型も観察される。(6) では数詞が叙述所有の述語として機能している。Stassen (2009: 31) はこれを数量語・修飾語の昇格 (quantifier/modifier-raising) としている。所有者は 2.1 節で見た限定所有によって表されている。ここでも所有物が主語標示と一致している。

- (6) *E* *tolu* *na* [*no-dratou*]_{POSSESSOR} [*waqa*]_{POSSESSEE} [*na* *lewe* *ni* *koro*]_{POSSESSOR}
 3SG three ART PC.N-3PA canoe ART people of village
 「村人はカヌーを 3 つ持っている (lit. 村人のカヌーが 3 つっている)」 (Milner 1956: 36)

3. Locational 型と Genitive 型のすみわけ

前節でみたように、フィジー語の叙述所有には Locational 型と Genitive 型の 2 つが観察される。本節では両者のすみわけに恒常性 (3.1 節) と所有者の名詞クラス (3.2 節) が関わっていることを示す。

3.1. 恒常性

所有文が表す関係について、Langecker (1994), Heine (1997), Stassen (2009), Dixon (2010), Aikhenvald (2013) などが類型を提案している。このうち本発表は Heine (1997) の枠組みを用いる (7)。本節では恒常性が Locational 型と Genitive 型の選択にかかわっていることを指摘する (表 1)。

(7) 所有関係 (Heine 1997: 34-5)

- a. 物理所有 physical possession (PHYS) I want to fill in this form; do you have a pen?
- b. 一時所有 temporary possession (TEMP) I have a car that I use to go to the office but it belongs to Judy.
- c. 恒常所有 permanent possession (PERM) Judy has a car but I use it all the time.
- d. 譲渡不可能所有 inalienable possession (INAL) I have blue eyes/two sisters.
- e. 抽象所有 abstract possession (ABST) He has no time/no mercy.
- f. 無生物譲渡不可能所有 inanimate inalienable possession (IN/I) That tree has few branches.
- g. 無生物譲渡可能所有 inanimate alienable possession (IN/A) That tree has crows on it.

表 1: フィジー語の叙述所有構造

	IN/A	PHYS	TEMP	ABST	PERM	INAL (KI ²)	IN/I
恒常性	–	–	–	+/-	+	+	+
Locational 型	+	+	+	+	–	–	–
Genitive 型	–	+	+	+	+	+	+

以下よりそれぞれの所有関係についてフィジー語の叙述所有がいかに表されるかを詳述する。

まず物理所有と一時所有について見る。物理所有とは、その時点で所有者と所有物が物理的に結びつけられている所有関係である (Heine 1997: 34)。一方、一時所有とは、所有者は限られた時間内において所有物を用いることができるものの、所有権は主張できないような所有関係である (Heine 1997: 34)。両者の相違は相対的なもので、時間的には前者は momentary な所有、後者は temporary な所有である (Heine 1997: 39) もの、恒常的でないという点で共通している。これらの場合、Locational 型も Genitive 型も許容される (8), (9)。以下例文中で、L は Locational 型、G は Genitive 型をそれぞれ表す。

(8) 物理所有「今、ペンを持っていますか」

L: *E tiko vei iko e dua na peni ?*
 3SG be to.PRPR 2SG 3SG one ART pen
 G: *E dua no-mu peni ?*
 3SG one PC.N-2SG pen

² kinship (親族名称) の略語。後述するように、譲渡不可能所有のうち身体部位は所有文で表されない。

(9) 一時所有「(借りた) 本を持っている」

L:	<i>E</i>	<i>tiko</i>	<i>vei</i>	<i>au</i>	<i>na</i>	<i>ivola</i>
	3SG	be	to.PRPR	1SG	ART	book
G:	<i>E</i>	<i>dua</i>	<i>no-qu</i>		<i>ivola</i>	
	3SG	one	PC.N-1SG		book	

これに対し**恒常所有**とは、典型的には所有者が所有物の法的権利を持っており、所有権関係ともいえる (Heine 1997: 34)。このような恒常的な所有では **Genitive** 型が好まれる (10)。

(10) 恒常所有「チョネは (先週買った) 車を持っている」

G:	<i>E</i>	<i>dua</i>	<i>na</i>	<i>motokā</i>	<i>ne-i</i>	<i>Jone</i>
	3SG	one	ART	car	PC.N-POSS	PN

抽象所有とは、所有物が病気や感情といった実体のない概念である所有関係である (Heine 1997: 34)。このうち、「～がない」のような欠如は **Locational** 型でも **Genitive** 型でも表されうる (11)。

(11) 抽象所有「私はお金がない」

L:	<i>E</i>	<i>sega</i>	<i>vei</i>	<i>au</i>	<i>na</i>	<i>ilavo</i>
	3SG	NEGV	to.PRPR	1SG	ART	money
G:	<i>E</i>	<i>sega</i>	<i>na</i>	<i>no-qu</i>		<i>ilavo</i>
	3SG	NEGV	ART	PC.N-1SG		money

次に**譲渡不可能所有**について見る。譲渡不可能所有はさらに、親族名称と身体部位の下位クラスに分けられる (Dixon 2010: 264, Aikhenvald 2013: 3)。親族名称は **Genitive** 型のみ許容される (12)。これは、譲渡不可能所有名詞が所有者の標示を要求する拘束形式であることの当然の帰結である。**Locational** 型で譲渡不可能所有を表そうとしても、斜格名詞句は所有者ではなく場所として解釈される (後述)。

(12) 譲渡不可能所有: 親族名称「弟が 2 人いる」

G:	<i>E</i>	<i>rua</i>	<i>na</i>	<i>taci-qu</i>
	3SG	two	ART	younger_sibling-1SG

一方、身体部位は (13) のように形容詞文で表される。一見、これは数詞と同様に (cf. (6)), Stassen (2009: 31) のいう修飾語の昇格にも思われるものの、本発表ではそのように見なさない。その理由は、数詞と異なり、(14) のような存在動詞を用いた **Genitive** 型の所有文が想定できないからである。身体部位は所有していることが当然である所有物 (角田 2009: 158 のいう「普通所有物」) であるため、わざわざ (14) のような所有文で表さないのだと考えられる。

(13) 譲渡不可能所有: 身体部位「彼は青い眼を持っている」

E karakarawa na yaloka ni mata-na
3SG blue ART egg of eye-3SG

(14) * *E tiko na yaloka ni mata-na karakarawa*

3SG be ART egg of eye-3SG blue

(「彼は青い眼を持っている」を意図)

最後に所有者が無生物である所有関係を見る。無生物譲渡不可能所有は全体部分関係ともいわれる所有関係である (Heine 1997: 35)。ここでは Genitive 型が好まれる。(15) の *taba*「枝」は拘束形式であるため所有接尾辞で所有者が標示されている。(16) では所有者が *ni* によって標示されている。

(15) 無生物譲渡不可能所有「木に枝が3本ある」

G: *E tolu na taba-na na vunikau*
3SG three ART branch-3SG ART tree

(16) 無生物譲渡不可能所有「私の家はドアが2つある」

G: *E rua na katuba ni no-qu vale*
3SG three ART door of PC.N-1SG house

無生物譲渡可能所有は Locational 型のみ許容される (17)。ここでは所有者は前置詞 *e* で標示される。

(17) 無生物譲渡可能所有「この部屋には机がある」

L: *E tiko e na rumu qō e dua na tēveli*
3SG be in ART room this 3SG one ART table

以上のことをまとめると前掲の表1のようになる。Genitive 型は意味的制限がなく、様々な所有関係を表しうる。一方、Locational 型は恒常性の低い所有関係でしか用いられないといえる。

Locational 型の所有者は、その名の示す通り、場所と連続している。コンサルタント LG 氏によれば、Locational 型の斜格名詞句は必ずしも所有者を表すわけではなく、場所として解釈されうるという。例えば (18) の *peni*「ペン」の所有者は必ずしも「私」であるとは限らないという。このことは叙述所有と存在文との連続性を示唆するものである。

(18) *E dua vei au na peni*

3SG one to.PRP 1SG ART pen

「ペンが私のところにある」

このことはさらに (19) から確かめられる。(19) の *peni*「ペン」の所有者は「あなた」でしかありえず、「私」は場所ではない。

- (19) *E dua vei au na no-mu peni*
 3SG one to.PRP 1SG ART PC.N-2SG pen
 「あなたのペンが私のところにある」

3.2. 所有者の名詞クラス

本小節では所有者の名詞クラスが **Locational** 型と **Genitive** 型の選択に関わっていることを示す。

フィジー語には (i) 人称代名詞・固有名詞と (ii) 普通名詞の 2 つの名詞クラスが認められる。これらの名詞クラスは共起する冠詞や前置詞、目的語としての実現の仕方等が異なる。

3.1 節でみたように、恒常性の低い所有関係では **Locational** 型と **Genitive** 型の 2 つの表現がありうる (表 1)。しかしこれは所有者が (i) 人称代名詞・固有名詞の場合に限ったことである (20), (21)。所有者が (ii) 普通名詞の場合、**Locational** 型は許容されず、**Genitive** 型しか許容されない (22)。

(20) 人称代名詞の所有者

L: *E tiko vei au na ivola*
 3SG be to.PRP 1SG ART book
 G: *E tiko no-qu ivola*
 3SG be PC.N-1SG book
 「私は本を持っている」

(21) 固有名詞の所有者

L: *E tiko vei Mere na ivola*
 3SG be to.PRP PN ART book
 G: *E tiko na ivola ne-i Mere*
 3SG be ART book PC.N-POSS PN
 「メレは本を持っている」

(22) 普通名詞の所有者

L: * *E tiko ki na gone na ivola* / * *E tiko e na gone na ivola*
 3SG be to ART child ART book 3SG be in ART child ART book
 G: *E tiko no-na ivola na gone*
 3SG be PC.N-3SG book ART child
 「子供は本を持っている」

ひょっとすると、この選択には情報構造が関わっているかもしれない。というのも、**Locational** 型の所有者が (i) 人称代名詞・固有名詞に限られるということは、所有者は定であるということである。一方、**Genitive** 型は談話の導入、すなわち全体が新情報の発話に用いられやすいという指摘がある (23) (Milner 1956: 36)。

- (23) (=6) *E tolu na no-dratou waqa na lewe ni koro*
 3SG three ART PC.N-3PA canoe ART people of village

「村人はカヌーを 3 つ持っている (lit. 村人のカヌーが 3 つっている)」 (Milner 1956: 36)

ただし、これは所有者が無生物の場合には当てはまらず、恒常性の低い所有関係では **Locational** 型しか許容されないことを強調しておく (cf. (17))。

4. おわりに

類型論的にフィジー語の叙述所有は **Locational** 型であるとされてきたものの、実際には **Genitive** 型も観察される。本発表で明らかにした両者の相違は (24) の通り;

(24) a. **Locational** 型: 恒常性の低い所有関係に用いられる傾向があり、所有者は人称代名詞・固有名詞に限られる。

b. **Genitive** 型: 所有関係の時間的特性や所有者の名詞クラスに制限はない。

今後の課題として述語の種類による意味的差異の記述がある。2.2 節でみたように、ボウマー方言では恒常性によって叙述所有に用いられる動詞が異なる (Dixon 1988: 128)。しかしコンサルタント LG 氏によれば、標準フィジー語にはそのような区別はないという。それに加えて、情報構造もかかわっている可能性もあるので精査する必要がある。

<グロス略号一覧>

1, 2, 3 first, second, third person / ART article / D drinkable class / E edible class / N neutral class / NEGV negative verb / PA paucal / PC possessive classifier / PN person name / POSS possessive / PRP proper / SG singular

<参考文献>

- Aikhenvald, A. Y. (2013) Possession and ownership: a cross-linguistic perspective. In: A. Y. Aikhenvald and R. M. W. Dixon (eds.) *Possession and ownership: a cross-linguistic typology*, 1-64. Oxford: Oxford University Press.
- Dixon, R. M. W. (1988) *A grammar of Boumaa Fijian*. Chicago: The University of Chicago Press.
- Geraghty, P. (2000) Possession in the Fijian languages. *Sprachtypologie und Universalien-forschung* 53 (3/4): 243-50.
- Heine, B. (1997) *Possession: cognitive sources, forces and grammaticalization*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Lynch, J. (2001) Passive and food possession in Oceanic languages. In: A. Pawley, M. Ross and D. Tryon (eds.) *The boy from Bundaberg: studies in Melanesian linguistics in honour of Tom Dutton*, 193-214. Canberra: Pacific Linguistics.
- Milner, G. B. (1956) *Fijian grammar*. Suva: Government Press. / Pawley, A. and T. Sayaba. (1990) Possessive-marking in Wayan, a western Fijian language: noun class or relational system? In: Jeremy H. CS. Davidson (ed.) *Pacific island languages: essays in honour of G. B. Milner*, 147-171. London/Honolulu: School of Oriental and African Studies, University of London/University of Hawaii Press.
- Stassen, L. (2009) *Predicative possession*. Oxford: Oxford University Press.
- _____ (2013) Predicative possession. In: Dryer, Matthew S. and Haspelmath, Martin (eds.) *The world atlas of language structures online*. Leipzig: Max Planck Institute for Evolutionary Anthropology. (Available online at <http://wals.info/chapter/117>, Accessed on 2019-04-24.)
- 角田太作 (2009) 『世界の言語と日本語: 言語類型論から見た日本語』改訂版. 東京: くろしお出版.